



レトロ・レトロの展覧会
2006

平成17年度調査埋蔵文化財展

財団法人滋賀県文化財保護協会
滋賀県教育委員会

ごあいさつ

琵琶湖と周辺の間々や大小の河川と平野などによって造られた美しく豊かな自然環境を持つ滋賀県は、日本のまんなかとでもいうべき地理的環境によって、独特の文化を育んできました。

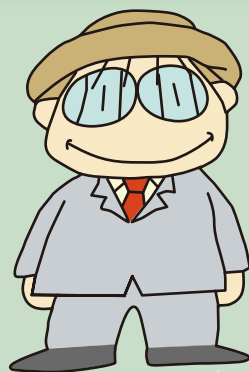
その文化の中で、私たちは、滋賀県立安土城考古博物館・滋賀県立琵琶湖文化館・滋賀県埋蔵文化財センターの運営や埋蔵文化財の調査・研究・普及啓発などを行うことにより、滋賀県が持つ豊かな文化財の環境をよりよくするよう日々努めています。

毎年、夏に行っている「レトロ・レトロの展覧会」は、皆さんに埋蔵文化財を広く知っていただくための取組のひとつで、今年で20回目になります。

この展覧会では、前年度に発掘調査で得られた成果を少しでも早く知っていただき、そして、出土した遺物にふれてもらうことや火おこしを体験してもらうことなどを通じて昔の人たちの生活に関心を持っていただければと思っております。

この展示が、文化財への理解を深めていただく助けとなり、また、歴史への興味を持っていただくきっかけとなって、その心が地域社会の未来を豊かなものにしてくれることを願っています。

財団法人滋賀県文化財保護協会



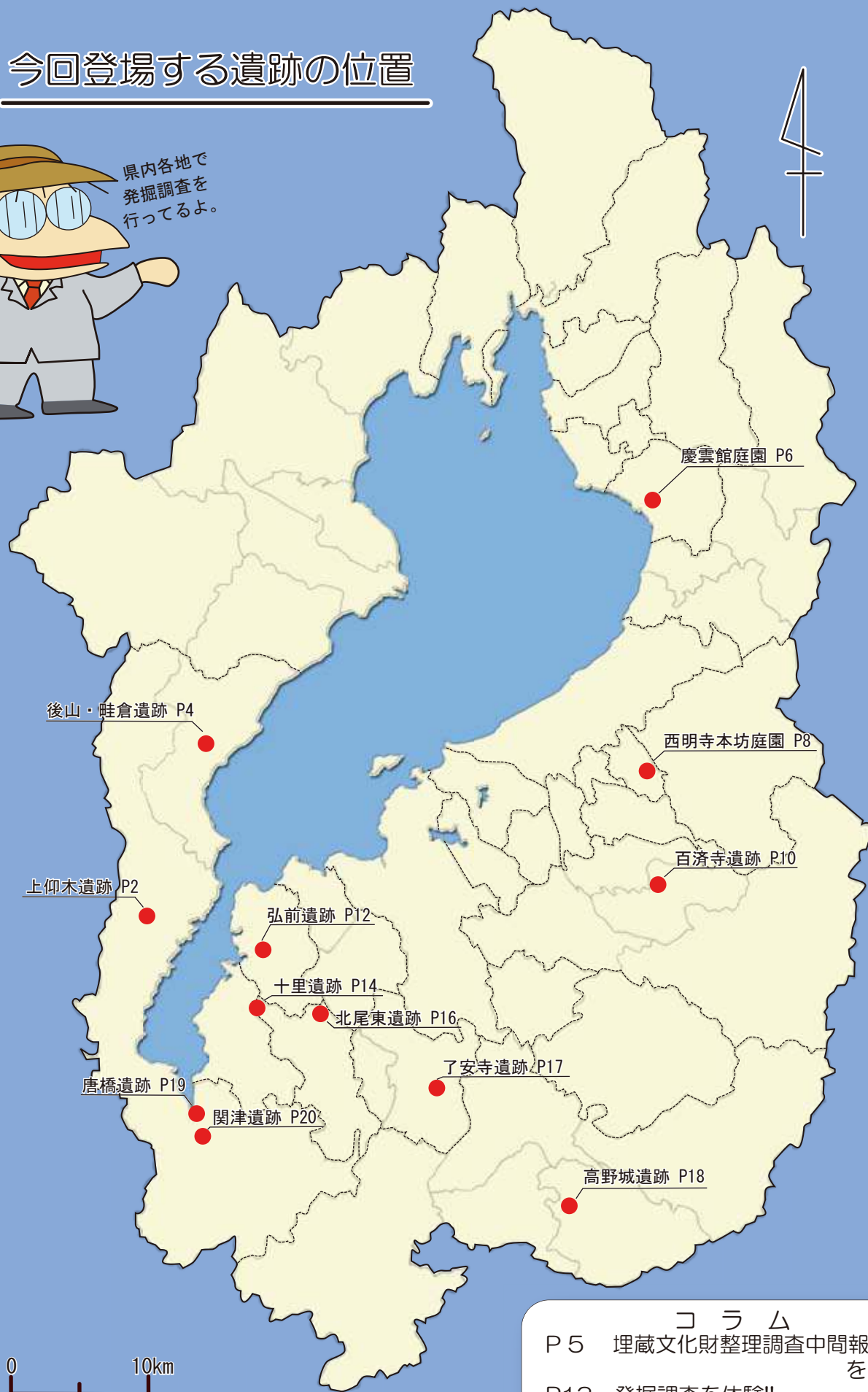
こんにちは！
滋賀県の新しい歴史を
ご覧ください。

シガタロウ君

今回登場する遺跡の位置



県内各地で
発掘調査を
行ってるよ。



0 10km

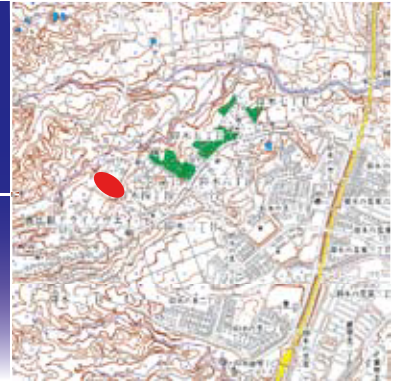
コラム

- P 5 埋蔵文化財整理調査中間報告会を開催!!
- P 13 発掘調査を体験!!
- P 21 現地説明会を開催!!
- P 22 平成17年度財団法人滋賀県文化財保護協会事業報告



かみおおぎ 上仰木遺跡 大津市仰木4丁目

延暦寺造営工房を発掘！



上仰木遺跡は、延暦寺にほど近い山麓に位置します。仰木と延暦寺の関係は深く、仰木道によって両地域は結ばれており、えしんそうげんしん恵心僧都源信によって開かれたという伝承を持つ寺院がたくさんあるほか、13世紀には延暦寺領になっていたことがわかります。

上仰木遺跡では、9世紀後半の製鉄炉と木炭窯、10～11世紀の銅の铸造関係遺物が見つかりました。また、調査区の隣接地に須恵器窯が存在していたことを推測できる資料も出土しました。9世紀後半以降の熱を用いる手工業生産に関わる遺構・遺物であることがわかりました。

最澄によって開かれた延暦寺は、9世紀後半になってちんごこつか鎮護国家の寺院としての役割を担うようになり、大教団として飛躍的な発展をとげます。上仰木遺跡で見つかったこれらの手工業生産に関わる遺構・遺物は、大規模化していく延暦寺を支えたものと考えられるのです。



上仰木遺跡の製鉄関係遺構



製鉄関係の遺物

ここで作られた鉄素材は、いくつかの工程を経て製品になります。

寺院を作るには、大量の鉄釘などが必要とされます。ここで作り出された鉄素材は、延暦寺で用いる鉄釘へと姿を変えていったのでしょうか？



製鉄に関わる廃棄場所の断面の様子

最も深いところで地表面から約2.2mまで廃棄物が堆積しています。全てを掘っていないので全体は明らかではありませんが、120トン程度が廃棄されたと推測できます。



銅の鑄造関係遺物

延暦寺で用いる仏具などを作っていたと考えられます。



窯から流れ出てきた須恵器

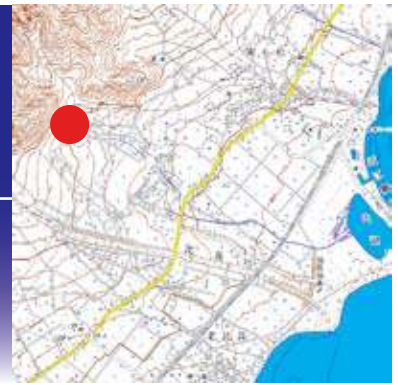
焼けひずんだものや、生焼けのもの、窯詰めに用いる道具まで出土しています。ここで作られた須恵器は、延暦寺で用いられていたことが明らかになっています。

うしろやま

あぜくら

後山・畦倉遺跡

大津市北比良



奈良時代中頃の製鉄遺跡

後山・畦倉遺跡は、比良山の麓にある遺跡です。ここでは奈良時代中頃の製鉄炉が見つかりました。奈良時代中頃の近江国の製鉄は、当時のことを記した『続日本紀』^{しよくにほんぎ}に見られるほど広く知られていました。

地質学的にみて比良山には鉄鉱石の鉱脈があると考えられます。比良山麓には、後山・畦倉遺跡を含めて12ヶ所もの製鉄遺跡が見つかっており、比良山から採掘した鉄鉱石を使って盛んに製鉄をしていたことが知られています。



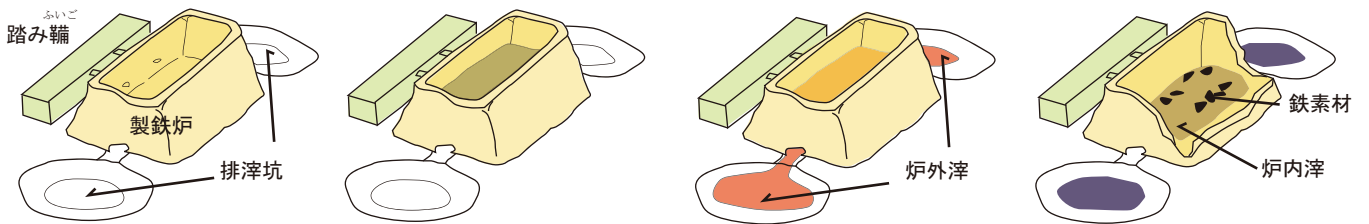
調査風景

製鉄炉の周辺を調査しています。中央の黒っぽいところが炉の底の部分に当たります。周辺には原料である鉄鉱石や燃料である木炭が散らばっていました。



製鉄炉

写真の右側が製鉄炉の底に当たります。長さ約1.5m、幅約0.5mの長方形です。左側のくぼみは「排滓坑」と呼んでいる穴です。鉄を作るときには、ドロドロに融けた不純物が大量に出てきます。「排滓坑」は、その不純物を流し入れるためのもので、中には不純物である鉄滓（炉外滓）が溜まっていた。



- ① 炉と踏み鞆を用意します。炉の両側には穴を掘っておきます。
- ② 炉の中に鉄鉱石と木炭を入れます。
- ③ 踏み鞆で強制送風し、温度を上げます。不純物を炉の外へ出します。
- ④ 炉を壊して、炉の底でできあがった鉄素材を取り出します。

古代の鉄作り

埋蔵文化財整理調査中間報告会を開催！！

安土町にある滋賀県立安土城考古博物館内では、発掘調査で得られた資料の整理調査を実施しています。

出土した遺物の土を落とし破片を接合して元の形へと復元していく作業や、遺物の形を測り製図していく作業などを行い、調査成果を報告書にまとめていきます。

この作業は博物館の回廊展示として見学していただけます。また、昨年度からは、埋蔵文化財整理調査中間報告会「あの遺跡はいま!」と題して、整理調査途中の成果報告や普段は入っていただけない整理室内での作業見学などを実施しています。ぜひ、おこしく下さい。(昨年度の様子や今年度のご案内は、ホームページをご覧ください。)



けいうんかんていえん
慶雲館庭園

長浜市港町



景色をつくる技

慶雲館庭園とは、明治天皇の^{あんざいしよ}行在所「慶雲館」に作庭された明治時代の名庭で、現在「長浜盆梅展」の会場になっています。作庭者は近代日本庭園の先覚者、植治こと7代小川治兵衛とされます。今回は、庭園整備に伴う発掘調査を実施しました。

4条の滝流れが明らかとなった奥庭の調査に続き、前庭と玄関前庭にも「流れ」が表現されていたことが明らかとなりました。

発掘調査・整備工事により甦った名庭は、平成17年度に国指定名勝となりました。



玄関前庭建碑前流れ平面図



当初の慶雲館庭園

優れた写真家でもある七代小川治兵衛の長男保太郎は、自ら慶雲館に関する写真集を発刊しています。左の写真は明治45年当時の流れの様子です。

奥庭の池に取り付く滝流れと、玄関前庭の流れ（左頁の図）が石敷きで表現されていたのに対して、前庭の流れは取り入れた水を流して「溪流」を表現しています。

発掘調査前の状況

100年もしない間に、樹木はなくなり、やや荒廃した姿になってしまっていました。



発掘調査後の状況

最上段の写真に見える溪流底の石敷きは無くなっていますが、昔ながらの石灰系混和材による底打ちや護岸などにより漏水を防いでいたことが明らかとなりました。優れた土木・造園の技が垣間見られます。

明治の名庭の景色をぜひ現地でご覧下さい。

さいみょうじ ほんぼう ていえん 郡町
西明寺本坊庭園 犬上池 寺



文化財をまもるひとコマ

西明寺は、織田信長の焼討ちにあった湖東三山の寺院のひとつです。幸い寺院の骨格となる本堂や塔などは難を逃れ、江戸時代には再興を遂げます。現在の本坊庭園は、この頃に整備されたもので、国指定名勝となっています。

庭園は本坊書院の前にある池を中心に景石を配されたもので、書院からみる池泉鑑賞式の庭園です。作庭されてから 300 年近く経ち、自然災害などにより傷みが生じてきました。

発掘調査は保存修理工事に伴って実施しました。発掘調査によって傷みの原因などを探り、修理前、修理後の記録をとり、庭園の景色を保存する方法を考えるための資料とするのです。



本坊庭園の上段の現状

本坊庭園の上段にも庭園らしき所があります。そこで、池と想定される部分を発掘調査しました。その結果、深さ 50cm 程度の池が存在していたことが明らかとなりました。



(上) 池想定部分の調査前の状況

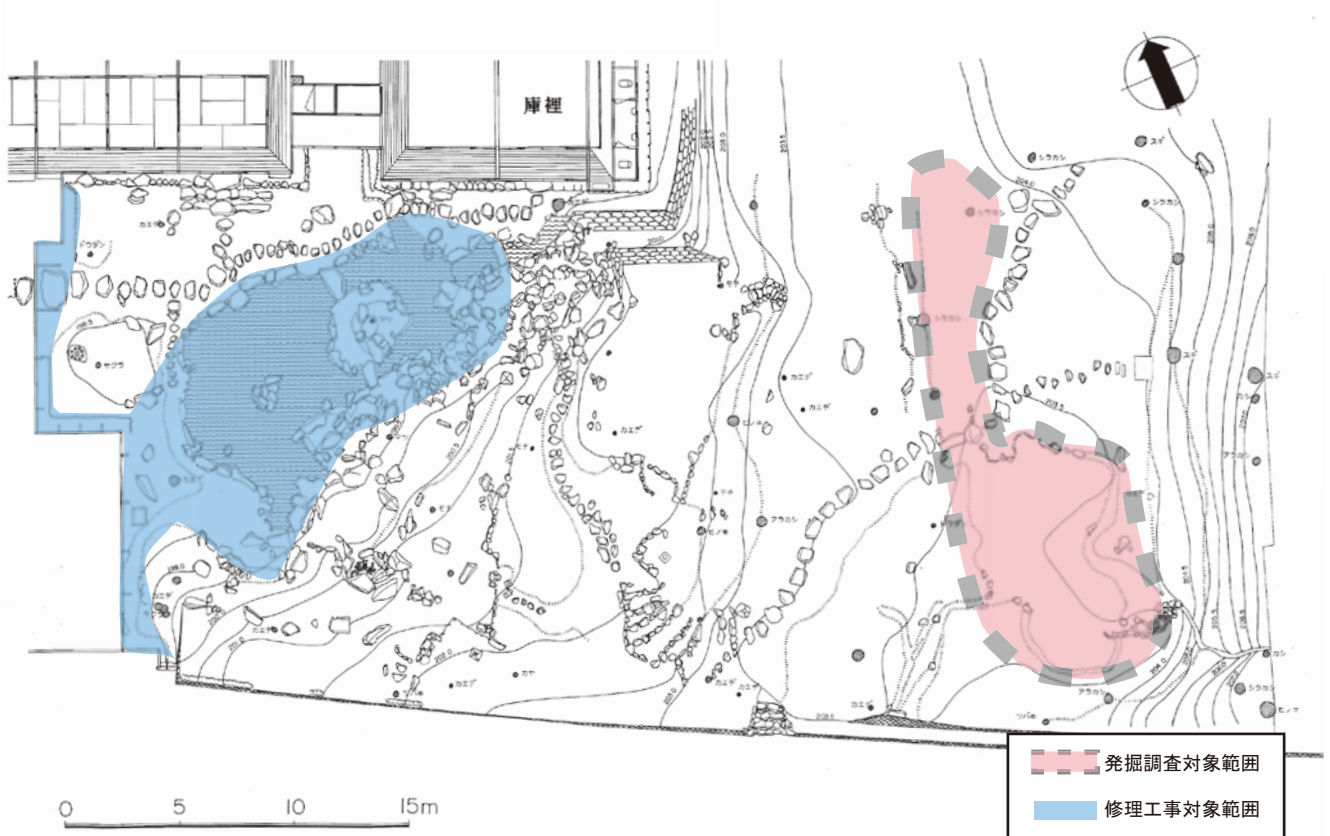
完全に埋没し、護岸の石積みだけが
見えていました。

(下左) 埋まっていた池

池を埋めていたのは泥や腐葉土で
した。護岸石積みもはずれかけていま
した。

(下右) 溝状の落ち込み

水を引き込んでいたかもしれない溝
状の落ち込みです。池と同じく泥や腐
葉土が堆積していました。



発掘調査および修理工事測量対象範囲

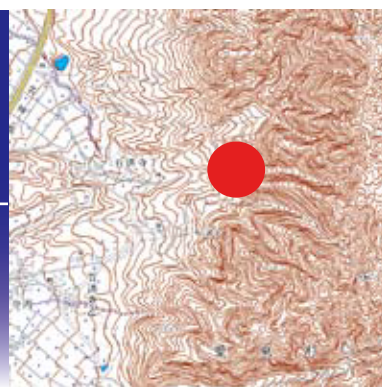
(写真・図面は西明寺提供)

ひゃくさいじ

百済寺遺跡

東近江市百済寺町

弥生時代の山の民



湖東三山のある鈴鹿山系の中腹に営まれた弥生時代後期から古墳時代頃の集落が見つかりました。百済寺に近いことから中世百済寺に関する遺構の存在が予想されましたが、思わぬ時代の遺構が発見されたことから、調査関係者は驚きを隠せませんでした。

集落跡は南川上流の谷の最深部、標高 360 ～ 390m に位置します。深い谷の斜面を掘り込んでつくられた竪穴住居 6 棟を確認し、住居内からは焼土や土器が出土しました。

弥生時代＝水田耕作というイメージをくつがえす発見でした。

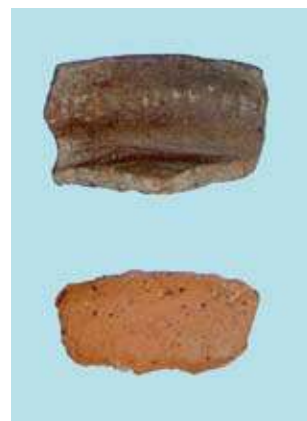


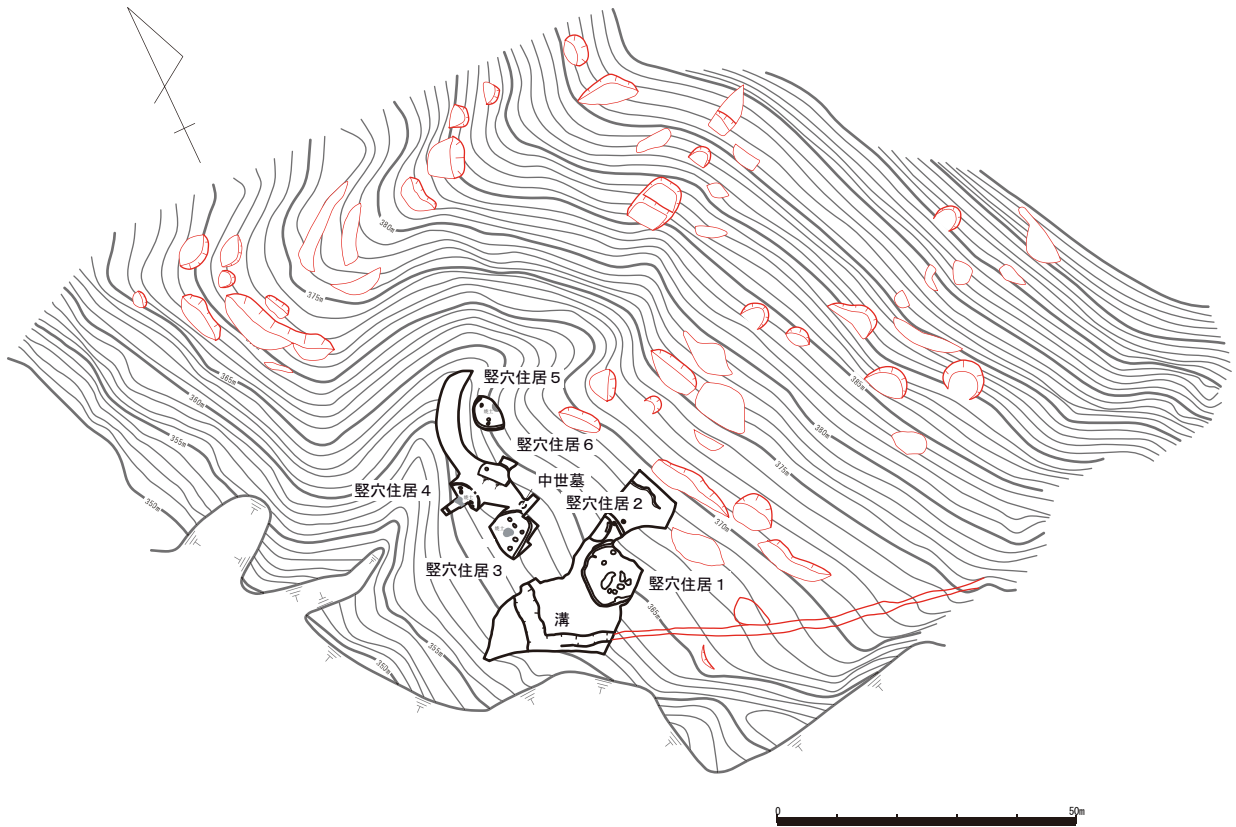
(上左) 鈴鹿山系の中腹、険しい谷の奥に遺跡はあります。

(下左) 発掘調査前の状況です。まさかこんな所から....。

(上右) 斜面を掘り込んで造られた竪穴住居です。

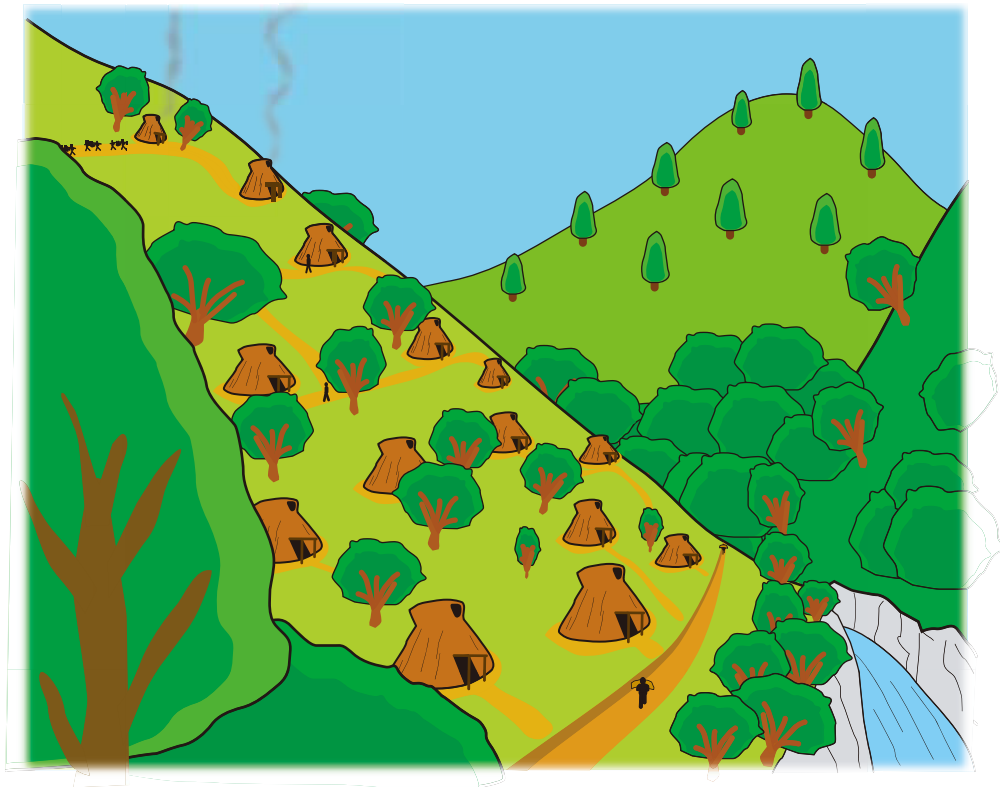
(下右) 竪穴住居内から出土した弥生時代後期の土器です。





百濟寺遺跡遺構および周辺測量図

調査地の周辺には人工的なものと思われる半円形の平らな地形が見られます。その数は50ヶ所以上もあります。これらの大半は竪穴住居と考えられます。



集落のイメージ図

弥生時代の山間地に営まれた集落、その目的は何だったのでしょうか？

こうまえ

弘前遺跡

守山市赤野井町・矢島町



弥生時代中期の墓跡見つかる

弘前遺跡では平成16年度から調査を続けており、今までに古墳時代から鎌倉時代にわたる集落跡を確認しています。

平成17年度の調査では、弥生時代中期のお墓（方形周溝墓）、古代の建物や井戸が見つかりました。



調査区全景

調査区の周辺は水田が広がり、水田の向こうには琵琶湖が広がっています。



弥生時代中期の方形周溝墓

弘前遺跡では、弥生時代中期の方形周溝墓が10基見つかりました。弥生時代のお墓の多くは、写真に見られるように方形で、四周に溝を持ち、溝を掘ったときに出た土を中央に盛り上げて、木棺などを用いて埋葬したと考えられるものです。

大きさは一辺約4.5～8.0mで正方形のものがほとんどですが、中には5.0×8.0mの長方形のものもあります。



集落の様子

(上) 掘立柱建物の柱穴がたくさん見えます。建物跡は、南北方向に向くものや現在の田んぼの方向（北東方向）に向くものなどがあり、建て替えられたものと考えられます。

(下左、下右) 掘立柱建物とともに井戸がみつかりました。井戸枠は舟を転用したもので、深さは約1.7mありました。

出土した土器から6世紀の終わり頃から7世紀にかけてのものであったと考えられます。



発掘調査を体験！！

右の写真は、十里遺跡で行われた高校生の発掘調査体験です。

参加した生徒たちには、調査員から発掘調査の方法や注意点などを教わったのち、実際に移植ゴテなどの道具を使って掘ってもらいました。

土の中から、昔の人が使っていた土器の破片が見つかるといった面白さ、重い土を運びながら少しずつ掘っていく大変さなどを感じてもらえたことと思います。



わーみんなとってもがんばってるな



ホームページに現地説明会資料あります。
<http://www.shiga-bunkazai.jp/>

じゅうり 十里遺跡 栗東市十里



古墳時代前期の生活跡が見つかる

十里遺跡は縄文時代中期から中世までの集落跡です。今回の発掘調査では、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての周囲に区画溝をめぐらせた住居8棟、掘立柱建物5棟、井戸4基、河川などが見つかりました。

住居の周囲に区画溝を持つものは、滋賀県内では^{しもなが}下長遺跡、^{しもまがり}下鉤遺跡、^{みくら}御倉遺跡といった野洲川や草津川の扇状地中・下流域のみで見つかっています。



十里遺跡の集落は、河川の両岸に広がっており、北側では区画溝を持つ住居や井戸が、南側では掘立柱建物が営まれてきました。

また、河川によって集落の中が区画されていた可能性があります。

このように、河川を取り込む集落構造は、下長遺跡や斗西遺跡^{とのにし}といった拠点集落に見られるもので、それらとの関連性が考えられます。



(上) 十里遺跡調査区全景
 弥生時代後期～古墳時代前期の集落

(下) 区画溝をめぐらせた住居



弥生時代後期～古墳時代前期の井戸

直径 2.3m、深さ 1.5m の井戸で、井戸柱にはくりぬいた丸太を使用しています。

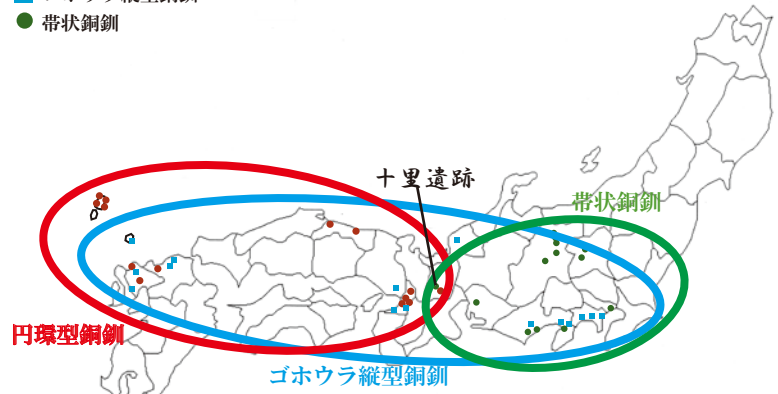
今回の発掘調査では、青銅板を輪にしたようなブレスレット(带状銅釧^{どうくしろ})を再加工した垂飾^{すいしょう}がみつかりました。

弥生時代の銅製のブレスレットは司祭などの特殊な仕事をする者だけが身につけるアクセサリーです。带状銅釧は、長野県北部を中心とした東日本に分布しています。十里遺跡の銅釧は西日本で初めて出土したものです。東方の遠隔地との直接的な人の行き来によってもたらされたものと考えられます。



銅釧を腕につけてみました

- 円環型銅釧
- ゴホウラ縦型銅釧
- 带状銅釧

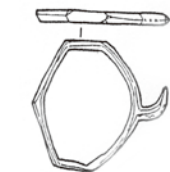


1989年 井上洋一「銅釧」『季刊考古学』27号
に一部加筆

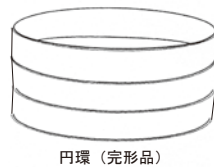
銅釧の分布図



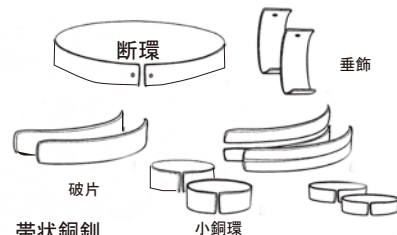
円環型銅釧



ゴホウラ縦型銅釧



円環 (完形品)



带状銅釧

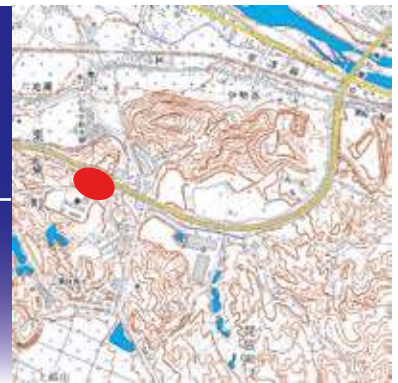
銅釧の種類

<参考：大阪府弥生文化博物館図録24>

きたおひがし

北尾東遺跡

栗東市六地藏



丘陵の中での暮らしの跡が見つかる

小規模な竪穴住居1棟と、側壁に火を受けた土坑1基、埋土に焼土や木炭を含む土坑3基などが見つかりました。須恵器の食器類が多く出土していることから、ここが生活の場であったことは確実で、瓦や鉄製刀子といった注目すべき遺物も出土しています。

平安時代前期頃、この丘陵の山林の中に生産に携わる人、あるいは山岳寺院として有名な金勝寺こんしょうじに程近いことから仏教修行者が一人で住んでいたのかもしれませんが。



(上) 竪穴住居

中央が竪穴住居です。

左下には壁の焼けた土坑が見えます。右下の焼土は住居内のカマドの痕跡です。

(左下) 竪穴住居内の遺物出土状況

竪穴住居の床面では、完全な形の須恵器の杯が見つかりました。この杯の中にも焼土や炭粒がつまっていた。

(右下) 壁が焼けた土坑

壁が焼けた土坑は、竪穴住居の近くで見つかりました。使われなくなった後、しばらくしてから石が放り込まれたようです。



りょうあんじ 了安寺遺跡 湖南省夏見



平安時代中頃から鎌倉時代の集落跡

了安寺遺跡は、平安時代中頃から鎌倉時代にかけての集落跡です。東海道と野洲川に挟まれた平地に位置します。

掘立柱建物や溝のほかに、お墓の可能性のある穴も見つかりました。

穴や溝からは、土器が出土しています。土師器、黒色土器、瓦器といった地元周辺で作られたもののほかに、東海地方からもたらされた灰釉陶器や緑釉陶器、中国との貿易ではるばる運ばれてきた磁器も見られます。



遺跡全景

たくさんの柱穴や溝などが見つかりました。夏見の家並みの北側で、かつては集落が営まれていたことがわかりました。



お墓の可能性のある穴

(上) 灰釉陶器が出土しています。

(下) 黒色土器が出土しています。

いずれもお供え物として穴に埋められたものと考えられます。



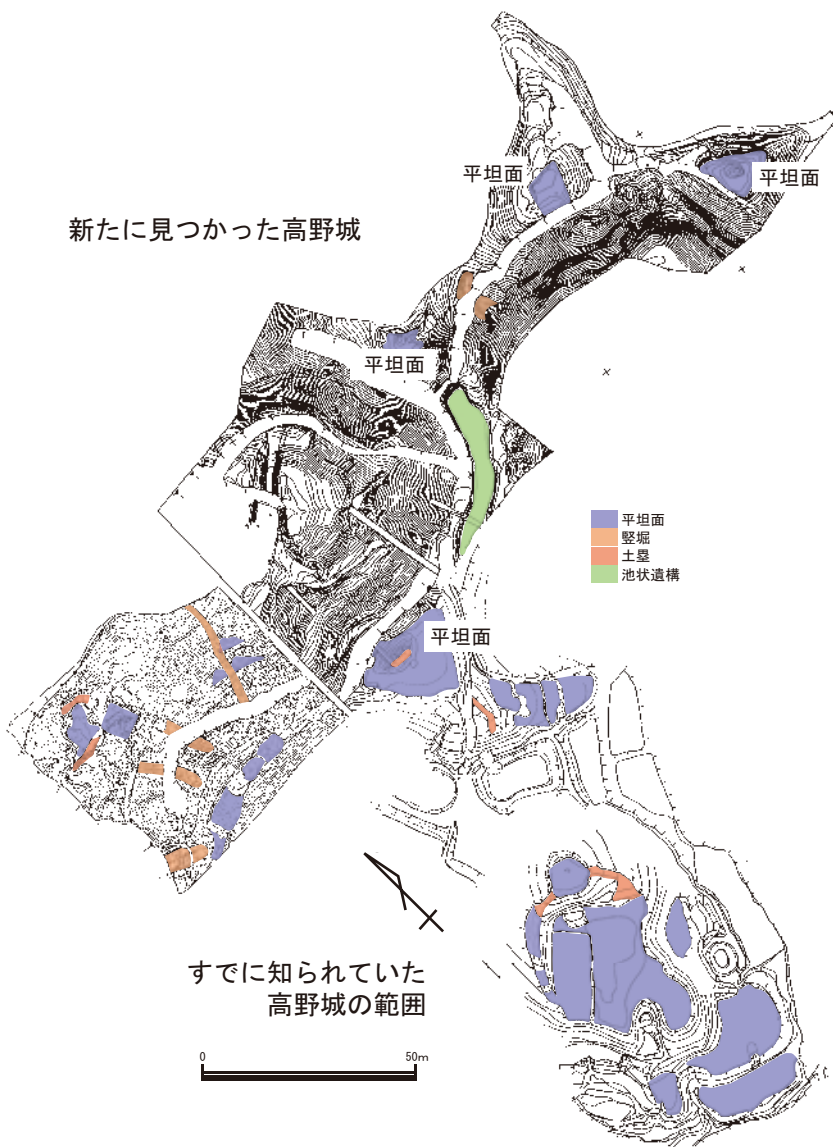
たかのじょう 高野城遺跡 甲賀市甲賀町高野

信長迎撃の城郭か！？



戦国時代の甲賀は、戦国大名が治めた他の地域とは違い、字（あざ）程度の範囲を治める「土豪」が寄り集まって物事を決める「郡中惣」^{ぐんちゆうそう}が発達した地域で、多くの城が残されています。高野城は主要経路の倉歴街道や杣川を見下ろす場所にあります。

今回の調査では、従来知られていた高野城の北側の広範囲にわたって人為的な平坦面などが見つかりました。構造から16世紀後半頃に作られたものと考えられます。ただし、造りが簡単で、しかも築造後の維持作業がされていません。このことから、織田信長の近江侵攻に対抗するための急場しのぎの城ではないかと考えられます。



高野城の様子

（上）山の斜面に積もった土を削って当時の地表面を出していきます。

（下）調査の結果、人為的に作り出された平坦面などが見つかりました。

（左）高野城の構造です。南東側に中心施設があり、北東側にも平坦面や堅堀や土塁が設けられています。

からはし

唐橋遺跡

大津市瀬田二丁目



瀬田橋の架橋年代を示唆・・・

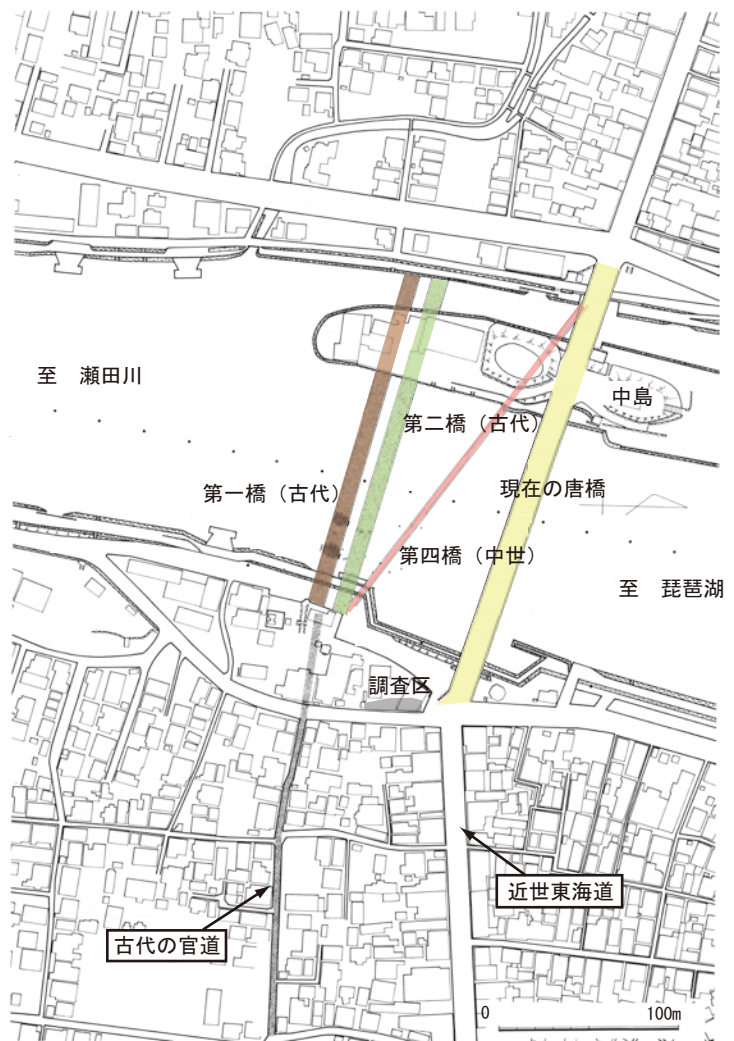
瀬田橋（唐橋）は、「瀬田橋を制するものは天下を制する」と言われるように古代から幾多の戦乱の舞台となっており、東国と西国を結ぶ主要な陸路であることが広く知られています。

「急がば回れ」という言葉は、京都と草津を往来する際に琵琶湖を船で渡れば楽なのですが、風待ちをすることが多いので、急いでいるならば瀬田橋を歩いて渡りなさいという意味です。ことわざになるほど有名な橋、それが瀬田橋なのです。

さて、1987年～1989年の発掘調査で、瀬田川の下から古代から中世にかけての橋脚がみつかりました。何れも現代の位置とは異なっていることがわかります。

今回は、現在の橋の東詰に当たる地点を発掘調査しました。その結果、17世紀以降の整地を確認しました。このことから橋が現在の位置に移ったのは、江戸時代以降であった可能性が出てきました。

今後の調査が期待されるところです。

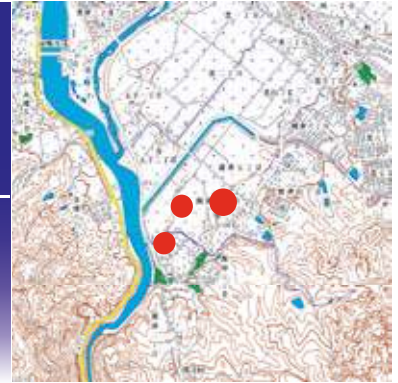


断面の様子

発掘された瀬田橋の架橋方向復元図

せきのつ 関津遺跡

大津市関津一丁目



現在の関津集落の原風景を発掘

関津遺跡では、平成 15 年度から発掘調査を実施しています。平成 17 年度は、ほ場整備と国道建設に伴う 2 つの調査を実施しました。

調査の結果、旧石器時代から江戸時代までの遺構・遺物が見つかりました。主な遺構は、弥生時代後期の竪穴住居、奈良時代から平安時代にかけての建物跡、平安時代末から鎌倉時代の建物跡などがあります。

水田下から現在の集落の原風景が掘り出されました。



(左上)
鎌倉時代の掘立柱建物

(右上)
平安時代末の井戸

(左下) 今までの調査

長期にわたる発掘調査でたくさんのことがわかりました。

現在では水田になっているところにも、古代の道が通っていたり、集落が営まれていたり....。

- 弥生時代後期
- 奈良時代～平安時代初め
- 平安時代末～鎌倉時代
- 平安時代



鎌倉時代の日常雑器が捨てられた土坑



平安時代末の溝に捨てられた土器類

現地説明会を開催!!

平成17年度は、6遺跡で現地説明会を開催し、県内はもとより県外からも多くの方々に参加していただきました。

これまで知られていなかった新しい歴史を実感していただけたものと思います。

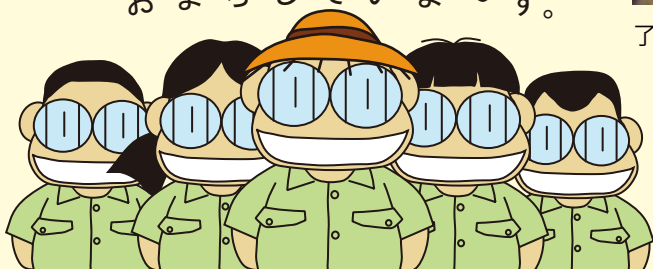
さて、今年度も私たちは県内各地で発掘調査を実施しており、できるかぎり多くの遺跡で現地説明会を実施したいと考えています。

調査の時しか見ることのできない遺構や出土したばかりの遺物をまじかに見学していただくことができるほか、発掘調査を担当している調査員が調査成果について詳しく、また時には熱っぽく説明いたします。

これまでに参加いただいた方、そしてまだ参加されたことのない方も、笑顔をお待ちしていますので、ぜひおこしください。

(現地説明会開催のご案内は、報道やホームページをご覧ください。)

おまちしていま～す。



上仰木遺跡



了安寺遺跡

1 文化財施設の管理運営事業：滋賀県立安土城考古博物館・滋賀県立琵琶湖文化館 ・滋賀県埋蔵文化財センターの管理運営事業

① 滋賀県立安土城考古博物館 年間総入館者数43,922人

◎特別展示

- 春季特別展『王権と木製威信具―華麗なる古代木匠の世界―』（入館者数 5,942人）
期 間 平成17年4月23日（土）～6月5日（日）
記念講演会 「木製品製作技術の発展」京都大学教授 上原真人氏 平成17年5月3日（祝）
博物館講座 「弥生・古墳時代の弦楽器―琴と筑状弦楽器をめぐって―」放送大学助教授 笠原 潔氏
平成17年5月15日（日）
「木製品の階層性」愛知県埋蔵文化財センター調査研究員 樋上 昇氏 平成17年5月29日（日）
- 秋季特別展『蒲生氏郷の時代―戦国時代を駆け抜けた武将―』（入館者数 5,220人）
期 間 平成17年10月8日（土）～11月6日（日）
記念講演会 「豊臣政権と蒲生氏郷」三重大学教授 藤田達生氏 平成17年11月3日（祝）
博物館講座 「蒲生氏郷文書を読む―古文書講読―」高木叙子（当館学芸員） 平成17年10月23日（日）
「文書にみる蒲生氏郷―日野・松坂・会津―」福島県立博物館主任学芸員 高橋 充氏
平成17年10月30日（日）

◎企画展示

- 第30回企画展 財団法人滋賀県文化財保護協会設立35周年記念展
『聖武天皇とその時代―天平文化と近江―』（入館者数 9,853人）
期 間 平成17年7月16日（土）～9月11日（日）
記念講演会 「紫香楽宮の造営と難波宮」大阪市立大学名誉教授 直木孝次郎氏 平成17年8月7日（日）
シンポジウム
基調講演 「聖武天皇の東国行幸」学習院大学講師 遠山美都男氏
事例報告 大崎哲人・畑中英二（財団法人滋賀県文化財保護協会） 平成17年8月14日（日）
博物館講座 「紫香楽宮と甲賀寺」甲賀市教育委員会文化財保護課係長 鈴木良章氏 平成17年7月24日（日）
「東大寺の考古学」奈良県立橿原考古学研究所主任研究員 平松良雄氏 平成17年9月11日（日）

- 第31回企画展『扇状地の考古学―愛知・犬上の古代文化』（入館者数 6,353人）
期 間 平成18年1月14日（土）～4月2日（日）

◎普及啓発関連事業

- 博物館講座
「近江の古墳文化について」滋賀県教育委員会文化財保護課参事 田中勝弘氏 平成18年1月22日（日）
「安土城の総構と城下町」滋賀県安土城郭調査研究所所長 近藤 滋氏 平成18年2月19日（日）
「近江古代豪族の世界」大橋信弥（当館次長） 平成18年3月19日（日）
- イベント 体験博物館（年5回）・子ども考古学講座（2日間）・お茶会（年2回）・親子写生大会・親子で楽しむ写真
撮影会・夏休み自由研究相談・ミュージアムコンサート・名作映画鑑賞会・クリスマス映画会・史跡案内
- 刊行物 年報・紀要・博物館だより「おおてみち」（年4回）・催しもの案内・展示図録など

② 滋賀県立琵琶湖文化館 年間総入館者数16,583人

- ◎特別展示『聖武天皇とその時代―天平文化と近江―』（入館者数 2,114人）
期 間 平成17年8月6日（土）～9月11日（日）
記念講演会 「近江の天平彫刻」同志社大学教授 井上一稔氏 平成17年8月7日（日）
展示解説 8月27日（土）

◎小企画展示 入館者数 3,852人

- | | |
|--------------------|--|
| 「近江の文化財」 | 通 年 |
| 「平成16年度滋賀県新指定文化財展」 | 平成17年4月12日（火）～4月24日（日） |
| 「曼荼羅展」 | 平成17年4月26日（火）～5月22日（日） |
| 「梵音具展」 | 平成17年6月1日（水）～7月24日（日） |
| 「地藏菩薩展」 | 平成17年10月8日（土）～11月6日（日） |
| ○文化館セミナー | 平成17年4月16日（土）・5月14日（土）
6月25日（土）・10月15日（土） |

◎テーマ展示 入館者数 10,617人

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| 「近世絵画による花と鳥」 | 平成17年4月1日（金）～5月22日（日） |
| 「近世絵画による水のある風景」 | 平成17年5月24日（火）～7月10日（日） |
| 「中国故事による絵画」 | 平成17年7月12日（火）～8月28日（日） |
| 「円山四条派の流れ」 | 平成17年8月30日（火）～10月10日（月） |
| 「横井金谷と紀亭草」 | 平成17年10月12日（水）～12月27日（火） |
| 「松・竹・梅」 | 平成18年1月4日（水）～2月12日（日） |
| 「谷文晁とその周辺」 | 平成18年2月14日（火）～3月30日（木） |

◎パネル展示

近江の庭園・近江の石仏・近江の偉人・近江八景・湖底遺跡など

◎自主事業

友の会作品展、写真展「水と仏の近江Ⅱ」「写真で見る滋賀の今昔」



安土城考古博物館（体験博物館）

- ◎調査研究事業
 - 紀要22号の刊行
 - 市町村指定等の美術工芸品修復の監督指導
守山市吉身 慈眼寺蔵 木造薬師如来坐像他2軀
 - 文化財保存(燻蒸等)の指導助言
米原市柏原 成菩提院 重要文化財、県指定文化財等
- ◎展示資料管理事業
 - 館蔵品・受託品の防虫防霉対策
 - 経年劣化に伴う館蔵品の修理(絹本着色花鳥図 中林竹洞筆1幅)
- ◎広報事業
 - 刊行物 年間事業概要の紹介パンフレット・「浮城」第27・28号
 - 広報活動 ホームページの充実
- ◎その他
 - 県教育委員会実施文化財活用事業(湖都古都御都n石坂線等)への参加



滋賀県立琵琶湖文化館(資料の搬出)

3 滋賀県埋蔵文化財センター 年間総入館者数6,814人

- ◎常設展示
 - 「出土品でたどる近江・滋賀県の歴史」 通年
- ◎刊行物
 - 「滋賀埋文ニュース」第301号～第312号(毎月発行)
 - 「埋もれた文化財の話 近江の弥生時代 そののはじまりと展開」第26号
- ◎資料収集・保管
 - 発掘調査報告書等の受け入れ 2,080冊
 - 図書資料閲覧件数 33件
 - 出土遺物・図面・写真の受け入れ
- ◎埋蔵文化財活用促進事業の実施
 - ガイドブック作成と講演会などの共同開催
 - ・「近江歴史探訪マップ」第5集、第6集
 - ・湖都古都御都n石坂線一街の電車で訪ねるびわ湖大津の歴史 歴史講座7回、文化財探訪6回、公開討論会1回(参加者計3,044人)
 - ・野洲川の弥生時代『「國」淡海に建つ』 歴史フォーラム(参加者250名) 平成18年2月18日(土)
 - 現地探訪バスツアー(参加者60名) 平成18年2月18日(日)
 - 研究会などの開催
 - ・第85回滋賀県埋蔵文化財センター研究会 平成17年11月23日(祝)
 - テーマ 「歴史のいし・石・意志～石に込められた近江の気持ち～」
 - 会場 ピアザ淡海県民交流センター(大津市)
 - 参加者数 280人
 - ・第86回滋賀県埋蔵文化財センター研究会 平成18年3月11日(土)
 - テーマ 「平成17年度滋賀県発掘調査成果報告会」
 - 会場 ピアザ淡海県民交流センター(大津市)
 - 参加者数 300人
 - 県有史跡地解説用リーフレット作成・リーフレット配布用ボックスの設置
対象文化財1 史跡瀬田丘陵生産遺跡群(大津市源内峠遺跡)
対象文化財2 甲賀市植遺跡



滋賀県埋蔵文化財センター(常設展示)



湖都古都御都n石坂線(文化財探訪)

2 文化財保護資金の貸付事業

◎貸付実行総額 4件 21,392,000円

滋賀県・県内市町・民間団体法人・企業および個人からの出資金・寄付金をもとに、無利子で文化財保護・保存のための事業貸付を行う。

3 埋蔵文化財の調査・研究・保護に関する事業

- ◎埋蔵文化財調査などの受託
 - 61件
 - 発掘・試掘調査 32件
(調査面積 50,021㎡)
 - 整理調査 29件



整理作業(遺物実測)



整理作業(製図)

4 文化財保護のための普及啓発事業 文化財に関する展示・講演会・シンポジウムなどの開催・刊行物の発行

1 企画展示など

◎平成16年度発掘調査埋蔵文化財展「第19回レトロ・レトロの展覧会」
 期 間 平成17年7月16日(土)～8月31日(水)
 場 所 滋賀県埋蔵文化財センター
 入館者数 3,418人

◎協会設立35周年記念事業

記念展「聖武天皇とその時代—天平文化と近江—」
 場所・期間 滋賀県立安土城考古博物館 平成17年7月16日(土)～9月11日(日)
 滋賀県立琵琶湖文化館 平成17年8月6日(土)～9月11日(日)
 講演会 会場：ピアザ淡海 参加者数：188人 平成17年8月7日(日)
 シンポジウム 会場：滋賀県立安土考古博物館 参加者数：151人 平成17年8月14日(日)
 史跡見学会 参加者数：46人 平成17年10月15日(土)
 刊行 『大仏はなぜ紫香楽で造られたのか—聖武天皇とその時代—』
 『35年のねんりん』



35周年記念展（聖武天皇とその時代）



35周年記念展関連シンポジウム

- ◎JR湖西線西大津駅構内文化財展示（年3回入れ替え）
 ○「古墳時代のムラはどんなムラ—古墳時代の拠点集落 植遺跡」
 平成17年5月27日(金)～9月9日(金)
 ○「発掘調査速報展—平成16年度に調査した遺跡」
 平成17年9月9日(金)～18年1月20日(金)
 ○「ふたつの城下町—幕末の膳所と彦根」
 平成18年1月20日(金)～5月19日(金)



JR湖西線西大津駅構内文化財展示

2 刊行物

- ◎「文化財教室シリーズ」No.217～220
 ◎「滋賀文化財だより」No.300～301
 ◎「遺跡散歩マップ」No.16 草津市・栗東市編
 ◎「紀要」第19号

3 発掘調査現地説明会などの開催

- | | | |
|------------------|----------------|---------|
| ◎高野城遺跡（甲賀市甲賀町高野） | 平成17年7月2日(土) | 参加者 40人 |
| ◎慶雲館庭園（長浜市港町） | 平成17年7月23日(土) | 参加者 80人 |
| ◎高野城遺跡（甲賀市甲賀町高野） | 平成17年9月10日(土) | 参加者 90人 |
| ◎十里遺跡（栗東市十里） | 平成17年10月8日(土) | 参加者 60人 |
| ◎入江内湖遺跡ほか（米原市ほか） | 平成17年11月20日(日) | 参加者520人 |
| ◎了安寺遺跡（湖南市夏見） | 平成17年12月4日(日) | 参加者 60人 |
| ◎百済寺遺跡（東近江市百済寺町） | 平成18年1月15日(日) | 参加者 80人 |
| ◎上仰木遺跡（大津市仰木町） | 平成18年2月25日(土) | 参加者200人 |
| ◎赤野井浜遺跡ほか（守山市ほか） | 平成18年2月26日(日) | 参加者123人 |
| ◎膳所城下町遺跡（大津市膳所） | 平成18年3月26日(日) | 参加者 20人 |

4 資料提供

- ◎入江内湖遺跡（米原市入江） 平成17年6月21日(火)
 ◎柳遺跡（草津市青地町） 平成17年12月21日(火)
 ◎後山・畦倉遺跡（大津市志賀町） 平成18年2月24日(金)
 ◎十里遺跡（栗東市十里） 平成18年3月1日(水)
 ◎竜ヶ崎A遺跡（安土町下豊浦） 平成18年3月28日(火)



遺跡散歩マップ No.16 草津市・栗東市編



柳遺跡出土の臼と杵

5 文化財体験学習などの受け入れ

◎学校関係

○草津市立南笠東小学校	79人	滋賀県埋蔵文化財センター展示見学・火起し	平成17年5月2日(月)
○甲賀市立希望ヶ丘小学校	91人	出前授業	平成17年5月12日(木)
○滋賀大学附属中学校	20人	出土品での学習	平成17年5月18日(水)
○甲賀市立水口小学校	120人	出土品での学習	平成17年7月7日(木)
○滋賀県立石部高等学校社会部	2人	栗東市十里遺跡発掘調査体験	平成17年7月25日(月)
○滋賀県立国際情報高等学校	3人	滋賀県埋蔵文化財センター業務体験学習	平成17年7月27, 29, 30日
○近江八幡市立島小学校	16人	出前授業	平成17年10月13日(木)
○米原市立米原小学校	124人	出土品での学習	平成17年10月18日(火)
○大津市立北大路中学校	2人	滋賀県埋蔵文化財センター業務体験学習	平成17年11月14日(月)～18日(金)
○大津市立瀬田中学校	5人	滋賀県埋蔵文化財センター業務体験学習	平成18年2月9日(木)～10日(金)
○大津市立瀬田北中学校	40人	滋賀県埋蔵文化財センター展示見学・石器作り	平成18年2月9日(木)～10日(金)

◎一般

○関西縄文文化研究会	20人	平成17年4月16日	○安土町教職員研修	30人	平成17年8月4日
○(財)鳥取県文化財団	3人	平成17年5月3日	○元興寺文化財研究所	2人	平成17年8月9日
○全埋協役員会	28人	平成17年5月13日	○古代学協会	1人	平成17年8月10日
○羽曳野市教育委員会	3人	平成17年5月22日	○滋賀県立大学	20人	平成17年8月17日
○元興寺文化財研究所	4人	平成17年5月24日	○琵琶湖博物館	2人	平成17年9月7日
○韓国国立博物館	4人	平成17年5月29日	○古代学協会	2人	平成17年9月8日
○日本中世土器研究会	10人	平成17年6月4日	○守山市教育委員会	1人	平成17年10月17日
○京都大学	1人	平成17年6月10日	○九州大学	1人	平成17年11月17日
○元興寺文化財研究所	2人	平成17年6月14日	○愛知学院大学	40人	平成17年12月7日
○織豊期城郭研究会	5人	平成17年6月25日	○青森県教育委員会	1人	平成17年12月13日
○縄文文化研究会	20人	平成17年7月10日	○愛媛県松野町教育委員会	1人	平成18年2月7日
○静岡県島田市教育委員会	3人	平成17年7月18日	○京都大学埋文センター	1人	平成18年2月28日
○IT産業関係研究者	6人	平成17年7月30日			

6 生涯学習等講座・講演会・各種研修会などへの出講

○栗東歴史民俗博物館 歴史フォーラム「近江から見た古墳の終焉」	(参加者110人)	平成17年4月23日(土)
○滋賀県瀬田会 講話「瀬田地域の今昔ー近江の国府(発掘された古代の役所)」	(参加者40人)	平成17年6月12日(日)
○米原市教育委員会 歴史講座「山と湖の縄文文化ー米原市の縄文時代」	(参加者40人)	平成17年6月16日(木)
○滋賀県立安土城考古博物館 博物館講座「入江内湖遺跡の調査」	(参加者91人)	平成17年6月26日(日)
○米原市教育委員会 歴史講座「木製農具とまつりー米原市の弥生時代」	(参加者30人)	平成17年7月8日(金)
○米原市教育委員会 歴史講座「埴輪とまつりー米原市の古墳時代」	(参加者35人)	平成17年8月11日(木)
○松岡町教育委員会 基調報告・パネラー	(参加者150人)	平成17年9月3日(土)
○守山市立埋文センター 歴史入門講座「近江の古代遺跡と出土文字資料」	(参加者48人)	平成17年9月17日(土)
○京都市生涯学習振興財団 アスニー・セミナー「律令国家と都城制ー大津京から平安京ー」	(参加者58人)	平成17年10月7日(金)
○守山市立埋文センター 歴史入門講座「信楽焼入門」	(参加者50人)	平成17年10月15日(土)
○守山市立埋文センター 歴史入門講座「天下布武の城ー安土城の調査からー」	(参加者40人)	平成17年12月10日(土)
○難波宮址を守る会「紫香楽宮関連遺跡の調査」	(参加者50人)	平成18年2月12日(日)





ホームページ・アドレス <http://www.shiga-bunkazai.jp/>
表紙: 上仰木遺跡 発掘調査風景